



東京都の東部を中心とする若手経営者の異業種交流グループ「グローバルTOKYO」が法律や税務の専門家を巻き込み、経営のレベルアップに取り組んでいる。現在の会員十七社の顔ぶれは精密部品や金型メーカーのほか、翻訳・通訳、ウェブサイト支援、貿易代行といったサービス企業の経営者や後継者。そこに弁護士や弁理士が加わり毎月さくばらんに情報を交換し、異業種ならではの刺激を与え合う。

「同業者のグループのように共同受注や共同開発はできないが、業種が固まっていないことで新鮮な情報やアドバイスが得られる」。会長を務める菅岩製作所（東京・豊島）の菅岩孝明社長はグループの利点をこう説明する。

グループは東京都中小企業振興公社の支援を受け二〇〇二年

# グローバルTOKYO

東京都



栗原誠峰さん 茂田博子さん 菅岩孝明さん

## 弁護士も招き異業種交流

に設立。毎月第二火曜日の午後五時から、千代田区の同公社の会議室で定例会を開く。会員を四十五人ずつ四つの班に分け、各回順番にテーマを決めて発表してもらうのが通例だ。今年度は中小企業診断士を招いての企業の活性化法の研修会や、TOTOグループのユニットバス工場の見学会も実施した。

他の異業種グループとの交流にも積極的。七月八日には多摩地区の企業を中心とする「AEC E-21」の会員である指田製作所（東京都青梅市）を訪れ、半導体関連装置、精密測定器などの部品製造を手掛ける工場を見学した。

翻訳サービスなどのスターションフォニー（東京・中央）の茂田博子社長も指田製作所の見学会に参加。「四つの柱となる事業を持ち、各事業の繁栄をうまく調整している点が参考になった」と話す。畑はまったく違いますが、年間を通じ均等に売り上げを確保する難しさを実感しているだけに、同社の取り組みには説得力があったという。

菅岩会長の五十二歳が最高齢で、平均年齢が四十歳弱と比較的若いのもグループの特徴だ。菅岩会長自身も「若手が多いため『昔はこうだった』と過去を振り返らず、前向きに取り組める」と考えている。

講師として招いた弁護士や税理士などを、その後会員に取り込んでしまうのもこうした若さゆえの行動力。専門家に「決算書の見方」や「会社法改正のポイント」について気軽に説明を受けることができ、「経営者として何が重要で、どう理解すべきかを本音で聞ける」（菅岩会長）。

グループの支援役の東京都中小企業振興公社取引振興課の栗原誠峰主任は「公社は二十の異業種交流グループの活動をサポートしているが、弁護士や司法書士などが参加しているのは珍しい。心強い」と指摘する。

会員が4-5人ずつ分かれテーマを決めて発表する



(川崎満)